5 企画委員からの発信 ～募金活動を通して得た心の変化～

報告者　東京都文京区立根津小学校　藍澤　恭子　先生、池田　礼　先生

活動のポイント

本校では、毎年５月に５・６年生の企画委員６名が中心となってユニセフ集会を行っている。企画委員が５月初旬にユニセフハウスを見学し、開発途上国の子どもたちの現状について学んだことを自分たちの生活と関連付けながら全校児童に向けて発表するというものである。また、校内や駅に出て募金活動を行い、多くの方々から寄せられた募金を寄付する活動も行っている。

実践

企画委員会の活動に位置づけ、計画的に実践を積み上げた。子どもたちの心の変容も大きな収穫と考えている。

実践の流れ

１．ユニセフハウス訪問　☞　ユニセフハウスの展示を見学し、開発途上国の子どもたちの現状を学んだ。子どもたちは、ガイドさんの話から、様々なことを知り、感じとったようである。

学習したことの中で心に残ったこと
- ユニセフのあゆみ
- 水と衛生
- 途上国の子どもたちの学習状況
- 子どもの労働
- 地雷

２．ユニセフ集会に向けての準備　☞　企画委員は、見学で学んできたことや資料をもとに、全児童に関心をもってもらえるように、クイズを作成した。子どもたちは、写真、具体的な数値、感想等を取り入れて内容を工夫していた。
クイズの内容は、写真を見せて、「これは何でしょう」と問う初歩的なものから、「井戸の近くにトイレを作らないのはなぜでしょう」などのように考えさせるものまであり、企画委員の苦労のあとがうかがわれた。

次に示すのは、クイズの例である。

▶ **クイズ①**　トイレの近くに井戸をつくらないのはどうしてでしょうか。

答え　井戸の水が、汚れないようにするため。

▶ **クイズ②**　厳しくあぶない仕事をしている子どもたちは、世界で何人いるでしょうか。

答え　１億1,500万人の子どもたちが、厳しく危ない仕事をしています。

▶ **クイズ③**　これは何でしょうか。

答え　ブータンの教科書

一枚の布が教科書になっていて、持ち運ぶことができます。また、いろいろな教科で使える優れものです。

▶ **クイズ④**　これは何でしょうか。

答え　途上国の学校で使う石盤。ノートの代わりに使います。

▶ **クイズ⑤**　水道や井戸がないところでは、どうやって水を運んでくるのでしょうか。

答え　水がめなどで、運んできます。

写真は、ネパールの水がめです。水を入れると、子どもの力では、少ししか持ち上がらないほど重いです。

３．ユニセフ集会

いよいよユニセフ集会である。募金活動に向けての一歩ということもあって、企画委員は意欲的に準備に取り組んできた。

当日は、分かりやすくなるよう、項目ごとに発表を行った。クイズもなかなかの盛り上がりを見せていた。

発表した項目　▶　・ユニセフとは　・保健　・栄養
・水と衛生　・教育　・保護
・緊急支援　・募金

４．募金活動

募金活動は、５月の最終週に行われた。校内外での一週間の活動である。土曜日には、授業公開があり、保護者の応援もいただいた。地元の根津駅周辺で、校外の募金活動も行うことができた。

活動を終えて、企画委員は募金の集計をする。募金の額云々より、みんなで協力して成し遂げたことそのものが、成果であると実感することができた。

結果は、朝会で全校児童に発表したが、ただ知らせるだけでなく、みんなと感動を共有したい、「金額を聞いて驚きを持ってほしい」など、企画委員の思いのいっぱい詰まった朝会となった。「驚いてくれるかなぁ」。募金金額の数字を一つずつ１枚の画用紙に書き、クルクルと回りながら、一枚一枚見せていく企画委員の表情から、嬉しさがきらきらとこぼれていた。

実践より

ユニセフハウスで説明を受けた子どもたちは、開発途上国の子どもたちの生活と自分たちの生活との違いに驚き、自由に水道の水を使えること、食べたい時に食べたいものが食べられること、毎日学校に通って勉強ができること等、自分たちの生活がいかに恵まれているかを再認識した。ユニセフ集会の準備では、全校児童に関心をもってもらうために、スライドに絵や写真、クイズ、具体的な数値を取り入れたり、「これはなぜだと思いますか」という問いかけを加えたりした。また、ここは絶対伝えたいと思うところは特に思いを込めて話すことを意識して練習に当たった。発表後は、「低学年の子もみんな真剣に聞いてくれて良かった」「募金について早速質問があった」と嬉しそうに話していた。

子どもたちの意識が大きく変わったのは、募金活動を終えて集計をした時だった。募金活動中は、「できるだけたくさん入れてほしい」「何円入れてくれた人もいたよ」というように、どちらかと言えば募金額に意識が向かっていた子どもたちだった。しかし、集計時では子どもたちから出てくる言葉が、「○円もあったら薬が大量に買えるね」「根津の人ってみんな温かいね」「先生、これって本当にユニセフが責任をもって届けてくれるんですよね」「募金活動をして良かった」に変化し、募金を通して感じた人の温かさや募金で救われる発展途上国の子どもたちへの気遣いに意識が傾いていた。

来年度からは、ユニセフ集会や募金活動に留まらず、募金の意義についてよりよく理解してもらえるような活動を考えさせ、取り入れていきたい。